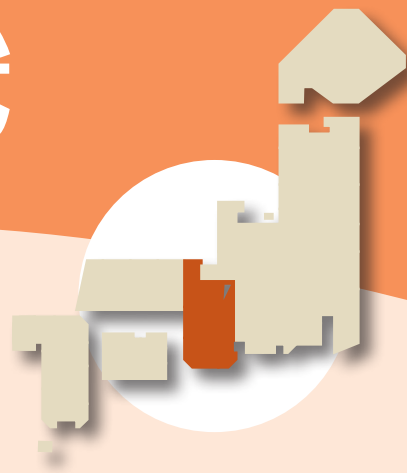


近畿



京都府	藤井 貢さん		サッカー	40
兵庫県	佐川純雄さん		グラウンド・ゴルフ	41
奈良県	浜田健治さん		水泳	42
大阪市	古跡孝和さん		弓道	43



サッカー 「京都府」チーム

ふじ い みつぐ

藤井 貢さん

60 歳

● 参加歴：1 回目

劇的ゴールでつかんだ優勝は、生涯の思い出に！

私は初めてねりんピックに参加させていただきました。初日、京都府での結団式を経て、一路北陸へ。途中の石川県で1泊、その夜は京都府選手団約160名が一堂に会しての大懇親会に。

翌日6時起きで総合開会式会場を目指します。いざ会場に着くと、そこは「人・人・人」。入場行進の隊列に並べば、地元の子供達「富山きときと夢 KIDS」による歓迎行事。行進までの待ち時間を退屈することなく過ごせる工夫がされていました。そして、いよいよ入場行進。とても大きなメインスタンド前を行進していると、国体選手にでもなったような気分でした。その後は、スタンドで地元の食材をふんだんに使った弁当を食べながら、地域色豊かなメインアトラクションを楽しみました。

3日目、いよいよ競技が始まりました。京都府は、北海道、群馬県、徳島県との4チームで構成するBブロックに。初戦の徳島戦は一進一退の攻防が続き、1対1で迎えた試合終了間際、相手ゴール前でパスを繋いで決勝点を決めた直後にホイッスルが鳴り、幸先良いスタートを切りました。

2戦目の北海道戦は、直接フリーキックで先行するものの、一時相手ベースになったところでパスを回され同点に追いつかれるという展開に。後半はお互いが危険なシーンを凌ぎ切ってそのまま引き分けで終了。

4日目の最終戦・群馬戦は、前半互いにチャンスを生かせず無得点。後半PKを与え先制を許したが、選手全員が諦めることなく、プレスをかけ続けた結果、終了2分

前に相手のゴール前でのミスを逃さず同点に追いついた。その結果、我がチームは、二度の終了間際の劇的ゴールで1勝2分の勝点5となり、実力伯仲で接戦ばかりのBブロックで優勝を飾ることができました。中学校からのサッカー歴48年間で、こんなに劇的な幕切れの連続で優勝をつかみ取った大会は初めてかもしれません。

京都府チームは、登録選手16名の平均年齢は66歳と少々高めであるものの、勝利を目指す一体感はずば抜けていたと思います。それは、5月の選考会を含めた5回の強化練習と懇親会を経て本番に臨んだことや、大会中連夜の「作戦会議と称した小宴会」により培われ、それが今回のブロック優勝に繋がったものと確信しています。

今大会の開催にご尽力いただいた皆様、そして温かく送り出していただいた職場の皆様から感謝申し上げます。



試合当日。宿泊施設の前で笑顔を見せる京都府チーム。(2列目左端)



グラウンド・ゴルフ 「竜野らくちんクラブ」(選手代表)

さがわすみ お

佐川 純雄 さん

72 歳

● 参加歴：1 回目

感動、感動、また感動で、10 歳は若返った!?

グラウンド・ゴルフのチーム発足から10余年、途中でチーム名も“らくちんクラブ”から地域の名前を付け加え“竜野らくちんクラブ”と改称、兵庫県の大会でも時おり優勝や入賞もありましたが、さらに今回のねんりんピック出場で県内グラウンド・ゴルフ愛好者の方々にも多少なりとも知っていただけるようになりました。出場が決まった感動もありましたが、今以上のマナーが大事と思わせる瞬間でもありました。

ねんりんピック最初の日の総合開会式では2時間前から集合、打ち合わせなどがあり、兵庫県選手団行進のサポートをしていただく小学生は、応援メッセージの入った手作り横断幕や兵庫県について詳しく調べたこと(姫路城など)を発表してくれました。それが最初の感動です。チームの仲間が作ってくれた“赤とんぼ”ブローチの持ち合わせがあり、お礼にお渡ししました。「兵庫県たつの市から来ました。『赤とんぼ』三木露風の里がたつの市です」の紹介で理解していただき、ここでも交流ができました。

いよいよ競技場内入場、200名以上の楽団演奏で行進、いろんな演出の中で1万人の大イベントを一員として担っている実感が次の感動です。昨年の国体出場では公開競技でもあり、当然ながら総合開会式には出られませんでした。今回はテレビで見る国体総合開会式の気分でした。

2日目から高岡市でのグラウンド・ゴルフ交流大会が立派な運動公園で始まり、ここでも歓迎アトラクションや『おもてなし』と称し、郷土料理等もふるまっていただき、とてもリラックスできたように思います。その甲斐あって兵

庫県竜野らくちんクラブからも仲間の1人が3位入賞となりました。途中からもスコアはいい線でしたのであとは発表待ちでしたが、なんといっても3位は快挙! 大きな感動となりました。

いろんな「感動」があった中で10歳(?)若返った4日間でした。次のねんりんピック紀の国わかやま2019はすでに他チームからの出場が決まっていますが、次のチャンスにまたチャレンジしたいと思っています。

今回のねんりんピック出場に際してお世話いただいた方々、尽力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。「ねんりんピック」感動をありがとう!

アプローチショット!



開会式終了後、スタンドで。(最前列)



水 泳 自由形 25m・50m 「なら」 チーム

は ま だ け ん じ

浜田 健治 さん

80 歳

● 参加歴：1 回目

猛練習を重ね銀メダル！ これからも泳ぎ続けたい

中学校から水泳を始め、まあまあの成績、高校では学校にプールがなくあちこちで借りて泳いでいましたが、何とか大阪府でベスト 10 に入り、それから 65 歳で定年を迎えるまで水泳とは無縁の生活でした。

時間ができたのでいざスポーツクラブへ。水泳には自信があると、25 m を全力で泳いだら死ぬほどしんどかったのを覚えています。それから猛練習を重ね、一度は倒れて気がついたら救急車が来ていたこともありました。

練習成果が出たのは、翌年奈良マスターズ水泳大会での上位入賞でした。それから毎年奈良マスターズ大会や奈良県大会で上位入賞が続きました。ねんりんピックは聞いたことがありましたが、たまたま県民だよりで、ならシニア元氣フェスタの水泳大会を知りエントリーしました。幸いにも代表に選ばれ、今大会に参加させていただくことになり、何とかベスト 10 には入りたいとの思いで臨みました。

11 月 2 日、奈良県選手団は京都駅に集合し一路富山へ。前泊地の山代温泉の大広間で各競技チームの決意表明が力強く行われました。翌朝バスで開会式場へ。広大な陸上競技場に全国から約 1 万人が参集。感動したのは 100 人を超える高校生の長時間にわたるプラスバンドの演奏でした。開会式終了後、早速試合会場へ直行。脱衣室やプールのレイアウトを確認し、少しウォーミングアップをして選手仲間とホテルへ。

翌日は 4 泳法共 50 m の競技。最初に背泳で奈良県が早速銅メダルを獲得し、スポーツ庁長官にメダルをかけてもらい感激の様子でした。続く平泳ぎでは日本新記録を出した実力で金メダルを獲得。次に私の番になり、自由形を全力で泳いで何とか 2 位に食い込み、銀メダルを取ることができました。

翌 5 日は最初に 25 m 自由形が行われ、昨日の雪辱と意気込んで臨みましたが、またもや僅差で銀メダルでした。他のメンバーはまたも平泳ぎで“さすが”の金メダルを獲得。そして僅かの差でメダルに届きませんでしたが、チーム全員大健闘でした。良い仲間恵まれ、和気あいあいと意義ある大会でした。

奈良県社会福祉協議会や大会関係者の皆様、大変お世話になりました。一生の楽しい思い出となりました。これからも健康に注意して水泳を続けていきたいと思っています。



表彰台で晴れやかな表情を見せる浜田さん。(左)



副知事を表敬訪問。



弓道 「大阪市」チーム

こせきたかかず

古跡孝和さん

67歳

●参加歴：1回目

40数年ぶりの競技。一本差で惜しくも優秀賞

初めてのねんりんピックは、2018年4月1日に住吉武道館弓道場で開催された全国健康福祉大会選手決定射会から始まりました。大阪市の選手選考は、最低人数および条件のクリアが危うい状態で、私はチームを成立させるための緊急参戦でした。条件は、「選手5人のうち1人以上は、70歳以上（男女問わず）が常時出場、競技するものとする」、また「5人のうち1人以上は、女性が常時出場する」。常時出場する女性、70歳以上の両条件を満たす小川先生（住吉弓友会）がキーマンとなり、小林先生、及川先生と私（大阪高津弓友会）と堺市初芝を練習拠点とされている植野さん（堺弓道協会）の5名に決定しました。

選手決定射会から、本戦は半年も先で、怪我や病気で一人でも欠ければ大阪市チームは成立しません。まさに綱渡りでの参加となりました。

11月2日に新大阪駅の団体集合場所に弓道部門のメンバー全員が無事そろい、バスで富山に向けて出発しました。3日の開会式では、大阪市チームの旗手と紹介アナウンスを弓道部門が受け持ち、私が旗手、紹介を及川先生で務めました。減多に経験できない大役をしっかりと果たしました。開会式場から射水市に移動し、夕刻に開始式に参加しました。

4日より競技が開始し、予選1回戦は半矢で上位の20チーム位のまずまずのスタートでした。5日は、予選2回戦は、初めの一手が8中で調子に乗り15中を叩き出し、予選トップ通過でした。決勝トーナメントは抽選の結

果、1回戦最終の試合でした。控えでは、みんな落ち着いてリラックスしているようでしたが、射場に入り、「起立」で本座に進むところから予選とは異なり、動作がそろわずバタバタしたまま行射に入り、まとまりに欠けた試合となり、1本差で敗れ優秀賞に終わりました。

私自身は、大学時代の試合以来、40数年ぶりの5人立ち4ツ矢の競技をさせていただき、思った以上に上手いきませんでしたでしたが楽しい時間を過ごさせていただきました。チームの皆さんありがとうございました。

大会では、日曜日に応援に来てくれた旧友や他チームの懐かしい方と楽しい時間を過ごせました。機会があればまた参加したいと思っています。

富山県の職員、射水市の職員、弓道連盟の方およびボランティアの方のご支援、協力および接待に深く感謝いたします。



5人立ち4ツ矢で力を合わせたチームメンバー。（中央）